

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	とちぎ新型コロナウイルス対応緊急助成事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク
実行団体名:	特定非営利活動法人子どもの育ちを応援する会
実施時期:	2021年 6月～2022年 2月
事業対象地域:	栃木県
事業対象者:	栃木県那須塩原市旧黒磯地区児童と保護者

Version 3.2

日付: 2022年3月16日

I. 事業概要

事業実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもお弁当：子ども食堂では困窮家庭に届かないため日祝日に月1回お弁当を小学校で子ども無償で配布。随時100食、ボランティアは15名参加。 ●家庭支援サービス：子どもとの関りに困難を抱える親子の支援のため家庭訪問を実施、月間7日程度。電話相談ライン相談は毎日行っている。 ●困窮家庭支援：4軒、家庭訪問をし支援物資配布。 ●子どものリビング：2月まではコロナの状況を鑑み実施できずにいたが、3月より開始。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもお弁当：定着してきたせいか、11月、12月、3月に10～20食の残りが出たが、他団体の家庭支援に回した。個数を減らし、子ども食堂のない地域の別小学校に同日開催することを次年度の目標にしたい。捌ける個数が減っても楽しみにもらいに来てくれる子どもがいる中での取りやめは考えていない。 ●家庭支援サービス：期間中の相談件数14件になった、2月末での関りは3件。相談件数の中の2件は産後鬱、産前鬱が1件である。3件は市役所へ情報提供し、連携をしながら支援を行った。生後4か月のケースは当法人でショートステイを利用させた。1ケースは家族会議を開き父方祖父母宅へ生後2か月の子どもを移送し、母子分離をした。産前鬱のケースは引き続き不安感が高まったところでの家庭訪問サービスを行っている。 ●困窮家庭支援：4軒中2件は他法人へつないでいる。他法人は困窮家庭のために子ども食堂を始めたが、当法人で繋ぐまで、実際の困窮家庭との関り合いがなかった。当法人としては鬱を抱えている母親が、リハビリを兼ねて他法人での子ども食堂(テイクアウト)を取りに行くことで、地域とのつながりを目的としている。他法人へ支援物資を届け、交流をしながら支援を行っている。 ●子どものリビング：開始が伸びてしまい、本当に開催できるのか不安が募ったが、3月のまん延防止措置延長時では、場所を貸してくださる社会福祉法人と協議を行い、実施することとした。定員10名のところ、6名を上限とし、残り4名分は市役所ケースの子どもを預かる。子どもたちを預かりながら、親の取り扱いと一緒に子どもと考える、対応の仕方を教え、家に戻す狙いがある。
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	食料関連の不足	自宅で食事を満足に食べていない	全体数の2割	学校より情報提供のあったケース 困窮家庭支援の件数	980食配布済み	11月より一斉メールでの通知を提案され、子どもたちへの周知方法が変わったせいか、保護者対象事業になってしまった。その中でも来てくれる子どもには次回はいつ行、またやるということを口頭で伝えている。
生活困窮者	食料関連の不足	収入が少ないが生活保護世帯ではない家庭	全校生徒の15%	4名	7名	対象小学校の中では2名だが、近隣の小中学校からの申請もあった。
ひとり親	居場所の不足	発達障害がある子どもを自宅で留守番させる	全校生徒の30%	20名	開始できず	3月より開始。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	今回の小学校のケースをモデル事業にし、子ども食堂のない小学校もう1校に着手する。また、子どもの発達課題に関し、相談する窓口が極端に少ないので、当法人の中に相談支援事業所を設ける。
考察等	発達障害と子ども虐待は肩並べの状態である。子どもお弁当事業から、少しの時間でも当法人の支援者がお母さんと話すことが、お母さんたちのレスパイトになっていることも感じた。もっと地域にお母さんたちが頼れるように、当法人にしかできない支援を考えていく。

V. 活動

活動	進捗	概要
子どもお弁当	計画通り	対象小学校だけでなく、近隣の親子ももらいに来る形になった。
困窮家庭支援	ほぼ計画通り	スクールソーシャルワーカー、市役所の家庭相談員からの紹介があった。
子どものリビング	遅延あり	3月より実施。
おうちサポート	ほぼ計画通り	市役所の家庭相談員からの申し込みがあり、一緒に家庭訪問するケースもあった。当法人へ独自に相談依頼が入った家庭は市役所へつないだ。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	学校からの相談があり、被服室で「朝カフェ」を行うようになった。
---------------------	---------------------------------

Ⅶ. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	イベント感が減り、利用者が定着してきた。子どもだけで貰いにくる子も一定数いる。ラインでの相談が入るようになり、行政まで繋がらなかった家庭が当法人へ相談をしてくるケースがあった。昨年度と違い、コロナ禍だった昨年度は子どもの子育て不安よりもコロナへの不安対策の方が大きかったと感じるが、今年度はコロナへの不安はそこまで強くなく、それ以上に「働けない」「子どもと離れられない」状況での疲弊感が強く表れている。また、産後鬱ケースに関しては「孤独感」が強かった。
-----------	--

Ⅷ. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
那須塩原市子ども子育て総合センター	ショートステイ受託、子どものリビング、おうちサポートの利用者紹介。
NPOええ塩梅	金曜日の困窮家庭支援時テイクアウトお弁当作成。
那須塩原市立共英小学校	子どもおべんとう、朝カフェ開催、困窮家庭支援相談。

Ⅸ. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	613,470	607,470	99.0%
	管理的経費	0		#DIV/0!
合計		613,470	607,470	99.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	子どものリビング、おうちサポートのチラシ。
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	物置小屋への貼り付け。
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		必要規程について参考資料をもとに整備中。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	外部監査	団体の監事による監査を実施し監査報告書の提出を受けた
	内部監査	
	実施予定はない	
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述